

経営概況

2021年度実績

売上高は良好な市場環境を背景に伸長し、184億円と対前年24%の増収となりました。

営業利益は部材/物流価格の高騰が増益幅を押し下げたものの、増販や合理化等により875百万円と昨年の赤字から黒字に転換しました。

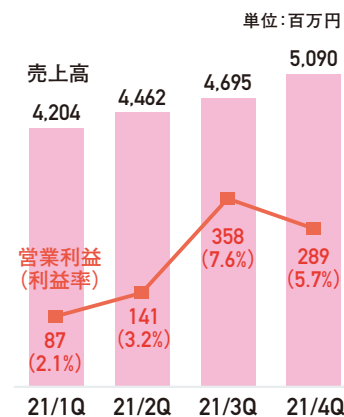
経常利益、純利益は補助金や円安の影響もあり増益幅を拡大しました。

単位：百万円、() 内利益率

為替(\$/円) 期中平均/ 期末日	20年度 106円/111円	21年度 112円/122円	前年比
売上高	14,857	18,451	124%
営業利益	▲74 (▲0.5%)	875 (4.7%)	-
経常利益	147 (1.0%)	1,043 (5.7%)	706%
純利益	75 (0.5%)	693 (3.8%)	914%
配当	7円	12円	+5円

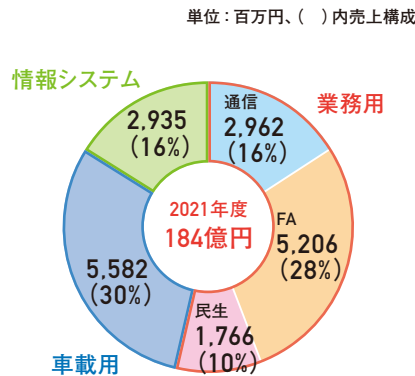
● 四半期業績推移

期末にかけて回復・拡大



● 分野別売上

FA・通信分野を中心に全分野が伸長



通信	国内外のFTTHやデータセンタなど通信インフラ向けが拡大
FA	旺盛な設備投資需要を背景に大幅伸長
民生	堅調に推移も、顧客の半導体調達難が一部影響
車載	半導体不足の影響を受けたものの期末にかけて回復基調
情報S	主要顧客が低調も、新顧客・案件の増加により前年超え

2022年度業績予想 (2022年5月発表)

設備投資需要の好調継続や半導体不足の緩和等により、総じて市場環境は良好に推移する見込みです。

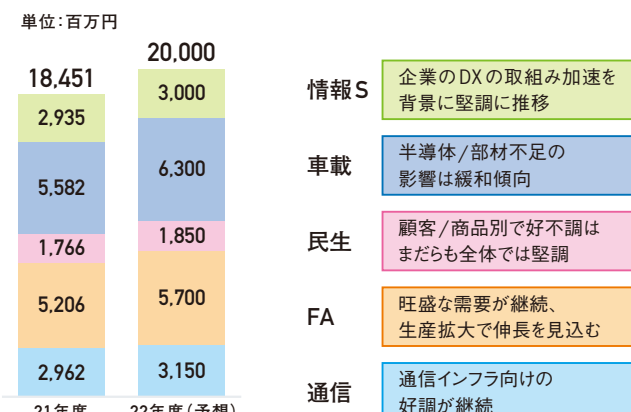
これらの好市況に加えて高水準の受注残に支えられ、売上高は対前年8%増の200億円への伸長を見込んでいます。

利益面においては、成長投資および調達価格上昇によるコスト増を、合理化と価格改定で吸収し、営業利益14億円を見込んでいます。

配当は、業績動向や財務状況等を勘案し、5円増配の17円を予想しています。

単位：百万円、() 内利益率

為替(\$/円) 期中平均	21年度 112円	22年度 通期計画 116円	前年比
売上高	18,451	20,000	108%
営業利益	875 (4.7%)	1,400 (7.0%)	160%
経常利益	1,043 (5.7%)	1,400 (7.0%)	134%
純利益	693 (3.8%)	1,000 (5.0%)	144%
配当	12円	17円	+5円



情報S	企業のDXの取組み加速を背景に堅調に推移
車載	半導体/部材不足の影響は緩和傾向
民生	顧客/商品別で好不調はまだらも全体では堅調
FA	旺盛な需要が継続、生産拡大で伸長を見込む
通信	通信インフラ向け的好調が継続